

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

時代を [A] に従って、音楽は人間の日常への浸透の程度を急速に増加させてきたと考えられる。その一つの契機^①は、疑いもなくラジオそしてオーディオ機器の発明と普及にある。何といってもそれまでは、「生」を聴きに出かける以外に音楽を愉^{たの}しむ術^{すべ}はなかったのが、いとも手^a軽に耳にすることが可能となった。結果として、自分自身が主体的に音楽活動に参加することはなくとも、受け身¹でその美しさに浸る人々の割合が天文学的に増大した。

そして二十世紀も終盤にさしかかった、今からこれ三〇年余り前に、さらに革新が起こることとなった。ポータブル・オーディオ・プレイヤーの出現である。ウォークマンなる商品が人気を博し、やがて iPod が登場したことは、おそらく今の段階で私たちが想像している以上に、これからの人間の生活に大きな影響を及ぼすことになるような気がしてならない。影響の大きさが当事者に認識できないとすれば、それは自分たちがまさに現状に取り込まれているために、冷静に事態の全容を眺められないからではないだろうか。

さし^bずめ、グー^{注1}テンベルク^{注2}の活版印刷の発明に匹敵すると表現しても誇張でないかもしれない。

グーテンベルク以前には、書物という代物^②はたいへん重いものであって、移動させるのはほとんど困難であった。手書きのオリジナル版が僧院や図書館に保管されていて、読むためにはそこへ出かけるしかなかった。借り出すことはできないので、気になる記述に遭遇すると筆写するのが常であった。「I」活版印刷で状況は一変する。薄い紙にぎっしりと文字をつめ込み、大量に製作することによって、安価でハンディな活字本ができあがったのだ。

時期を同じくして、ヨーロッパ世界では英国を [B] にして、乗り合い馬車という世界初の公共交通機関が出

現する。そして乗客たちが、この使い慣れないシステムを活用するにあたり、活字本を持参して移動中の所在な²い時間をつぶすという行為を思いつき、それが普及したときに読書という習慣が社会に流布した^③のだった。最初は貴族が始めたことであるとされている。

とって、彼らがとりたてて知的欲求が高かったと考えるのは、ややC^④だろう。乗り合い馬車のなかの狭い空間で、身分の異なる見知らぬ者同士が顔をつき合わす、その気まずさに平民よりも貴族のほうが耐えられなかったということが、大きく影響したのかもしれない。しかし本を持ち込んで、ページに目をやっていたら（あるいは読んでいるふりをすれば）、とりあえず目のやり場に困ることからは解放される。「Ⅱ」公共空間のなかに、私的な領域を確保する手段として、読書という行為は非常に都合がよかった。実のところ、その目的さえ達成できるのなら、読書する内容そのものは何でもかまわなかったのかもしれない。

「Ⅲ」、グーテンベルクに遅れること五〇〇年余りで、かつて書籍で起こったのと同じことが音楽についても見られるようになったのだ。ポータブル・オーディオ・プレイヤーの最大の特徴は、いつでもどこでも、ヘッドセットをすれば一人で音楽と向き合えるという点に尽きるだろう。

なるほど当人の視線は拘束を受けていない。だが本人の注意が視線の先にはないことは、誰にも見てとれる。耳から伝わってくる、その源に行っているのだ。結果として、「私の今の関心は、目の前にはありません。文字通り」D^⑤の状態ですよ」というメッセージを強烈に発信する機能を果たすことになっている。

「Ⅳ」機能的には書籍より格段にすぐれている。手をふさぐこともないし、電車に乗っているときばかりか、通りを歩いていようと、あるいは走っているときでさえ、彼らは公共の場にはないことにされてしまうのである。動く（ポータブルな）私的空間にくるまれた存在とみなそうという暗黙の合意が、みんなのなかで形成されている。いわば、文楽^{ぶんらく}における黒子^{くろこ}に類似したものかもしれない。

かくして音楽は、人間が「孤人」として受動的に愉しむものと化そうとしている。社会を形成する単位としての「個人」ではなく、ひたすら公の場に出ることをためらう、孤としての人間である。

「V」、これだけ街に音楽があふれるようになったのに、カラオケはむしろ衰退しようとしているのだから。強いて話題となるのは「ひとりカラオケ」、つまり「孤人」でカラオケを愉しむのが関の山⁵という始末だ。みんなで歌をうたって愉しむのを負担と感ずるようになった。ましてや、見ず知らずの者同士が合唱するとう「歌声喫茶」や「歌声酒場」は完全に死語と化したと言っ⁵ていいだろう。音楽は、歌という本来は社会的なコミュニケーションのツールとして誕生したはずなのに、とんでもなく違⁵った形へと変質したのである。

(正高信男『音楽を愛^めでるサル』による。一部改変)

注1 グーテンベルク：金属加工職人・印刷業者。活版印刷技術を発明した。

注2 活版印刷………活字を組み合わせて作った版で印刷すること。

問一 二重傍線①～③の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

問二 空欄A～Cに入る語として最も適当なものを、それぞれア～オから選び、符号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-----|---|-------|---|-------|---|-----|
| A | ア | さかのぼる | イ | 上る | ウ | 行き来する | エ | へりくだる | オ | 下る |
| B | ア | 尻切れ | イ | 皮切り | ウ | 幕切れ | エ | 封切り | オ | 歯切れ |
| C | ア | 早計 | イ | 推計 | ウ | 卓見 | エ | 私見 | オ | 失策 |

問三 空欄 D に入る語として最も適当なものを、ア～オから選び、符号で答えなさい。

- D ア 魚心あれば水心 イ 心を入れ替える ウ 心を鬼にする
エ 心ここにあらず オ 目は心の鏡

問四 波線 a～c の本文中の意味として最も適当なものを、それぞれア～オから選び、符号で答えなさい。

- a ア 少しは イ 思った通り ウ 非常に エ 予想以上に オ いつも
b ア つまるところ イ 直接に ウ 今のところ エ 遠回しに オ もしかすると
c ア 有意義 イ 理不尽 ウ 正念場 エ 精一杯 オ 一大事

問五 空欄「 I 」～「 V 」に入る語として最も適当なものを、それぞれア～オから選び、符号で答えなさい。

- I ア よって イ すなわち ウ ところが エ なぜなら オ また
II ア つまり イ たとえば ウ さて エ または オ けれども
III ア それとも イ ただし ウ そのため エ 逆に オ そして
IV ア だが イ しかも ウ したがって エ すると オ だから
V ア しかし イ あるいは ウ 要するに エ それゆえ オ では

問六 傍線 1 「受け身」の具体例として最も適当なものを、ア～オから選び、符号で答えなさい。

- ア コンサート会場に行つて、プログラム通りに演奏される音楽を聴く。

- イ 自分が好きではない音楽を、オーディオ機器で無理やり聴かされる。
- ウ 自分が演奏した音楽ではなく、他人が演奏したものを聴かせる。
- エ コンサート会場に行かずに、ラジオから流れてくる音楽を聴く。
- オ 自分が持っているオーディオ機器ではなく、他人の機器で音楽を聴く。

問七 傍線2「この使い慣れないシステム」が指している語として最も適当なものを、ア～オから選び、符号で答えなさい。

- ア ラジオそしてオーディオ機器
- イ ゲーテンベルクの活版印刷
- ウ 乗り合い馬車という公共交通機関
- エ ポータブル・オーディオ・プレイヤー
- オ ひとりカラオケ

問八 傍線3「書籍で起こったのと同じこと」とはどういうことか、その説明として最も適当なものを、ア～オから選び、符号で答えなさい。

- ア 公共交通機関で移動中に本を読むと、目のやり場に困ったということ。
- イ 公共の空間で本を読む者たちは、知的欲求が高かったということ。
- ウ 公共の空間で、本を読むことによって私的な領域を確保したということ。
- エ 公共交通機関で読む本の内容そのものは、何でもかまわないということ。
- オ 公共の空間では、いつでもどこでも本と向き合えるということ。

問九 傍線4「彼らは公共の場にいないことにされてしまう」のはなぜか、その理由として最も適当なものを、ア～オから選び、符号で答えなさい。

ア 私的な空間でポータブル・オーディオ・プレイヤーを使用している人は、注意が視線の先になく、何も考えていないため。

イ 公共の空間でポータブル・オーディオ・プレイヤーを使用している人は、自分の世界に浸っていて、周りに関心がないため。

ウ 公共の空間でポータブル・オーディオ・プレイヤーを使用している人は、周囲に関心がないように装って、実は周りを観察しているため。

エ どこでもポータブル・オーディオ・プレイヤーを使用している人は、公私の別をわきまえないで、自分勝手な行動ばかりするため。

オ 私的な空間でポータブル・オーディオ・プレイヤーを使用している人は、自分以外の他者はそこにはいないとみなしているため。

問十 傍線5「違った形へと変質した」の説明として最も適当なものを、ア～オから選び、符号で答えなさい。

ア 本当なら個人によって音楽の愉^{たの}しみ方は異なるはずだが、カラオケが普及したことで、その愉^{たの}しみ方が画一化してしまった。

イ 昔は音楽に人々を愉^{たの}しませる力があつたが、その力が衰退した今、音楽は人々に孤独を感じさせ、ストレスを与えている。

ウ かつて音楽は主体的に参加し、複数で愉^{たの}しむものだったが、今は他者との交わりを避け、独りで愉

しむものになっている。

エ 過去には音楽が街にあふれていたが、オーディオ機器で音楽を聴くことが一般的になった現在は、街で音楽が聴かれなくなった。

オ 本来、音楽は他者とのコミュニケーションを円滑にすることが目的であるが、現状では音楽そのものを愉しむことが目的になっている。

問十一 次のア～オのうち、本文の内容と合致するものを一つ選び、符号で答えなさい。

ア ポータブル・オーディオ・プレイヤーが社会的なコミュニケーションに与えた影響は、カラオケの影響ほどは大きくない。

イ 乗り合い馬車での移動中の手持ちぶさたや他人と同席する居心地の悪さを解消するための手段として、読書の習慣が定着した。

ウ 二十世紀も終盤にさしかかると、ラジオやオーディオ機器によってしか、音楽の美しさや素晴らしさを感じられない人が増加した。

エ グーテンベルクの活版印刷の発明は、身分の異なる者同士の関係を改善し、公共の空間を誰もが過ごしやすい場所に変えた。

オ ウォークマンやiPodが登場し、音楽が気軽に持ち運べるようになったことで、人間の生活は一変してしまった。

二 次の問いに答えなさい。

問一 次の熟語を空欄に入れるのに最も適切な文をア～ウからそれぞれ選び、符号で答えなさい。

1 愛称

ア 友人を□で呼ぶ。

イ 毎日□する詩。

ウ 悲しんでいたむ□歌。

2 意地

ア 同窓会を□する。

イ □でも動かない。

ウ 戦災□を養子にする

3 侵す

ア そののかされて罪を□。

イ 危険を□ほどの案件ではない。

ウ 他人の権利を□。

4 強要

ア 寄付を□する。

イ 仲間で□する道具。

ウ 大学で□を身につける。

5 軽重

ア 事の□をわきまえない。

イ □規定を制定する。

ウ 彼の意見は□すべきものだ。

問二 次の熟語の反対語あるいは対義語を、ア～コからそれぞれ選び、符号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|----|----|
| 1 | 巧妙 | 2 | 現象 | 3 | 購買 | 4 | 光明 | 5 | 集合 |
| 6 | 冷遇 | 7 | 是認 | 8 | 大胆 | 9 | 粗雑 | 10 | 叙事 |

ア	叙情	イ	否認	ウ	拙劣	エ	暗黒	オ	優遇
カ	小心	キ	離散	ク	販売	ケ	精密	コ	本質

問三 次の二文字に続いて四字熟語を構成する二文字を、ア～コからそれぞれ選び、符号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 温故 | 2 | 勸善 | 3 | 興味 | 4 | 曲学 | 5 | 巧言 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|

ア	令色	イ	自賛	ウ	満々	エ	温暖	オ	天外
カ	懲悪	キ	知新	ク	阿世	ケ	直言	コ	津津